

植えてはいけない花

森野かずみ



アツミゲシ



ナガミヒナゲシ

風薫る5月。幸いなことに板橋や練馬には、若葉の季節を楽しめる緑地や広めの公園などが残されています。広々とした場所では、時には寝をべって、風を感じながら青空を見上げるのもいいものです。風に揺れるポピーが見られる季節となりました。ポピーとはケシ科全体の呼び名です。花壇で見られるのは、花の大きいオリエンタルポピー、花色の豊富なアイスランドポピー、やや小さいヒナゲシの3種です。

道端や空き地などでよく見られるのはナガミヒナゲシで、土木工事の後などで稀に見かけるのがアツミゲシ。いずれも帰化植物ですが、アツミゲシは、あへん法により栽培などが禁止されている種に指定されています。ナガミヒナゲシは地中海地方原産で、花色は橙紅色〜紅色。花弁は4枚あり、花の後に残る細長い果実から和名が付けられました。アツミゲシも原産地は同じで、外側に白の混じる赤〜濃紫色の花色で中央にしばしば大きな斑紋があり、花弁は4枚で、果実は径15mmほど。和名は、1964年に日本で最初に発見されたのが渥美半島だったことに由来しています。

アツミゲシの駆除には自衛隊まで出動する騒ぎだったようですが、その後、全国各地で輸入肥料などに混入した種子により事実上定着してしまいました。ケシ科植物の種は、「ケシ粒のような」という表現があるように非常に小さいため、現実的には発芽前の対策は取れず、開花発見後の抜取焼却しかありません。見つけた時は、抜かずに保健所か警察への連絡が必要です。葉の付け根が茎を抱くケシに注意しながら、風薫る季節の散歩をお続けください。

※ Kacceのホームページでカラー写真をご覧いただけます。